氏　　名：五十嵐　由美子
学 位 の 種 類：博士（看護学）
学 位 記 番 号：甲第 229 号
学位授与年月日：2022 年 9 月 20 日
学位授与の要件：学位規則第 4 条第 1 項該当
論文審査委員：主査　長松　康子（聖路加国際大学准教授）
副査　堀内　成子（聖路加国際大学特命教授）
副査　米倉　佑貴（聖路加国際大学准教授）
副査　江藤　宏美（長崎大学大学院教授）

論 文 題 目：Effectiveness of an Early Skin-to-Skin Contact Program for Pregnant Women with Caesarean Section: A Quasi-Experimental Trial

博士論文審査結果

タンザニアで帝王切開術を受けた母親に対する早期母子接触（Early Skin-to Skin Contact:以後 SSC と略す）プログラムを開発し、助産師に教育を行い、SSC プログラムを実施した。介入群 86 名、通常ケアのみを行った対照群 86 名とでその効果を比較した。主要アウトカムは、産後 4 か月時点での完全母乳実施率、副次アウトカムは、産後 1-3 日、1 か月、2 か月および 4 か月時点における産後 6 か月間の完全母乳実施意欲、産後 1-3 日目の母乳育児の知識、周術期痛、出産満足度、産後 4 か月時点までの乳児の感染症または下痢による入院および死亡までの期間である。

その結果、主要アウトカムは両群で有意差が認められなかったが、出産ケア満足度は、経産婦と緊急帝王切開を受けた母親においてそれぞれ、対照群に比べ介入群が有意に高かった。また経産婦における乳児の入院および死亡の発生率は介入群で有意に低かった。帝王切開後の完全母乳率は両群ともに 80%と非常に高く、本研究で行った妊婦教育における母親への母乳推進教育が貢献した可能性があった。

これらの結果から、SSC は産後 4 か月時点での完全母乳率に効果はないが、経産婦や緊急帝王切開術を受けた母親の満足度に寄与し、経産婦では乳児の 4 か月後の入院および死亡を予防した。

審査での主な指摘は以下のとおりであり、加筆修正を確認した。

第 1 点は、追跡不能者は最終回答を用いずに、対象より除外すべきである。

第 2 点は、対照群の通常ケア、介入群で SSC を実施できなかった理由を加筆する。

第 3 点は、交絡因子を調整して、再分析する。

第 4 点は、SSC が完全母乳実施において効果がない理由、経産婦と緊急帝王切開を受けた者における出産ケア満足度に寄与した理由を考察に加筆する。

本研究は、修士論文の計画帝王切開後の SSC の成果を基盤に、対象を緊急帝

王切開の対象にも広げて評価した博士論文である。特に経産婦における乳児の入院および死亡の発生率が介入群で有意に低かった点、2 群ともに産後 4 か月の母乳育児継続率が約 8 割を継続した点は、国際母子保健の看護ケア研究として高く評価できる。また、COVID-19 パンデミックの時期を含め、タンザニアにおけるデータ収集が容易ではなかったが、現地スタッフの協力を得て実施できた力量は評価できる。帝王切開術を受けた母親に対する SSC の効果研究は少なく、本研究は重要な知見を示した。

以上により、本論文は、本学学位規程第 5 条に定める博士（看護学）の学位を授与することに値するものであり、申請者は看護学における研究活動を自立して行うことに必要な高度な研究能力と豊かな学識を有すると認め、論文審査ならびに最終試験に合格と判定する。